今月の一冊

木更津市教育委員会　元教育長　西村　堯　選

ケーキの切れない非行少年たち

宮口　幸治　著　・　新潮新書
ISBN978-4-10-610820-4
720 円 + 税

書名を見た時、私は、彼ら非行少年たちへの上から目線の哀れみ、蔑みのような雰囲気を感じて、あまりいい印象を持たなかった。

彼らには、ケーキを切るというおだやかな生活体験が無いのではないか。だから、図上のようなケーキにみたてた円を三等分するという課題には応えきれないのではないか。

私には、そんな風に感じられた。

表紙の帯の部分に彼らが描いた「ケーキ三等分」の図が載っている。

この図は著者が精神科医として、医療少年院に勤務していた時に、「ケーキを三等分する」という課題に対して、在院中の少年たちが出した答えである。

全く三等分になっていない。

しかし、本書を読み進めていくにしたがって、私の先入観・偏見は、徐々に修正され、読み終わると、多くの知見を得たことに満足した。

不明を恥じ入るばかりである。

著者は児童精神科医として、精神科病院や医療少年院に勤務し、多くの少年たちを診てきた。そこで得た知見を整理し、困っている(「困った」ではない!)子どもたちを助け導く方法を熱く語っている。

これは矯正関係者だけではなく、学校教育に携わる人たちへも貴重な提言となっている。

まず p.22 に衝撃的な記述がある。

> 更生のためには、自分のやった非行としっかり向き合うこと、被害者のことも考えて内省すること、自己洞察などが必要ですが、そもそもその力がないのです。つまり「反省以前の問題」なのです。
>
> - 簡単な足し算や引き算ができない。
> - 漢字が読めない。
> - 簡単な図形を写せない。
> - 短い文章すら復唱できない。
>
> といった少年が大勢いたことでした。見る力、聞く力、見えないものを想像する力がとても弱く、そのせいで勉強が苦手というだけでなく、話を聞き間違えたり、周りの状況が読めなくて対人関係で失敗したり、イジメに遭ったりしていたのです。そして、それが非行の原因にもなっていることを知ったのです。
>
> (p.23～p.24)

と述べる。

特に著者が注目しているのは、「軽度知的障害」あるいは「境界知能」(IQ70～84)の子どもたちである。この層の子どもたちは人口の 14%程度はいるとされているが、多くは、この問題に気づかれないままに放置されている状況があると指摘する。

さて、第 3 章で「非行少年に共通する特徴」がまとめられている。

「非行少年に共通する特徴 5 点セット+1」という小見出しのもとに以下のようにまとめられている。

認知機能の弱さ

見たり聞いたり想像する力が弱い。

感情統制の弱さ

感情をコントロールするのが苦手。すぐキレる。

融通の利かなさ

何でも思いつきでやってしまう。予想外のことに弱い。

不適切な自己評価

自分の問題点が分からない。自信がありすぎる。なさ過ぎる。

対人スキルの乏しさ

人とのコミュニケーションが苦手

+1　身体的不器用さ

力加減ができない。身体の使い方が不器用

以下、各事項について詳説し、具体的にどう対処していいのかが述べられている。

例えば、「認知機能の弱さ」の項では、こんな例があげられている。

よく「オレをにらんだ」とか「ニヤニヤ笑った」とかで、トラブルを起こすケースがあるが(よく「ガン」をつけるなどという)、

> この背景には、見る力の弱さがあります。相手の表情をしっかり見ることができないので、相手が睨んでいるように見えたり、馬鹿にされているように感じ取ったりして、勝手に被害感を募らせてしまうのです。
>
> (p.49)

> 見る、聞くといった力に問題がないかを確認する必要があると考えます。
>
> (p.57)

などと提言する。

ここで私は、はたと思いついたことがあった。

以前、英語の担当をしていた時に、どうしても「b」と「d」の区別がつかない生徒がいた。いくら口を酸っぱくして言っても、すぐ「b」と「d」を間違えるのである。

私は、努力、練習が足りないと思っていたが、もっと根本の認知機能(見る力)に障害があったのかも知れないと思い至った。

すまないことをしたと、今、悔やんでいる。

小学校段階でも、いわゆる「逆さ文字」を書く子がいると聞く。やはり、認知機能に問題があるのかも知れない。

著者は、経験上、小 2 くらいから、いろいろな問題が生ずるといっている。これに、学校教育は応えているのだろうか。

全ての学習の基礎となる認知機能への支援を

と著者は強く訴える。

「認知機能トレーニング(コグトレ)」を推奨する。第 7 章で一部紹介されている。

先にも述べたように、本書から、学校教育に関するたくさんのヒントが得られる。

お薦めの一書である。

今月の一冊（令和 2 年 7 月号　第 157 号）